



北原 ゆうじ

活動報告

発行 No.36

発行月：2025年1月

発行者：北原後援会事務局

【連絡先】

〒312-0063

ひたちなか市田彦 998-5

TEL：029-273-1815

FAX：029-275-1680

2025年も各級議員間で連携し、安心・安全な 社会の実現に向け全力で取り組みます



浅野衆議院議員と街宣活動の様子

常日頃からの皆様方のご指導・ご支援に感謝申し上げます。10月に施行されました第50回衆議院議員選挙におきましては、私たちの仲間である浅野さとし衆議院議員が、3期目の当選を小選挙区で果たすことができました。多くの方々のご支援に心から感謝申し上げます。国と地方の連携は重要です。引続き、浅野議員と情報共有を図りながら活動してまいります。また、ひたちなか市議会第4回12月定例会では、一般質問を行ないました。今回、ピックアップした項目および内容については、活動報告の4・5ページに掲載いたしますので、お読み取りいただければ幸いです。

今後も、課題解決に向けて活動するとともに、皆様方の声を一つでも多く市政に反映し、働きやすく住みよいまちのさらなる実現のために、全力で取り組んでまいります。引続きのご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

北原祐二

Pick Up ピックアップ①

〈前渡地区〉

第30回ひたちなか市民秋季大運動会が開催

10月13日(日)第30回ひたちなか市民秋季大運動会が各地域で開催され、前渡地区の運動会に来賓としてお招きいただきました。いくつかの競技にも参加させていただき、地域の皆様と楽しい時間を過ごすとともに、交流を深める機会となりました。



秋季大運動会
(勝田三中にて)



市民運動会の目的は、地域の方々との親睦を深め、交流を通じて地域全体の一体感を高めることにあると感じています。また、地域の活性化や住みやすい社会の実現にも寄与するものと考えます。今後も積極的に参加をし、より多くの方々と交流を深めたいと思います。

Pick Up ピックアップ ②

ひたちなか市誕生30周年記念式典が開催

ひたちなか市は、2024年11月1日で誕生30周年を迎えました。当日は、記念式典がひたちなか市文化会館で開かれ、市関係者や市民約1,100人が出席し、節目の年を祝うとともに、30年の歴史を振り返りながら、ひたちなか市のさらなる発展を誓い合いました。



ひたちなか市文化会館にて



30年間の歩みを振り返ると、多くの先人たちの努力が今日のひたちなか市の発展に繋がっていることを実感いたします。敬意を表するとともに、今後も市民の皆様の絆とご協力のもと、このまちが未来に向けて、さらに発展し続けることを心から願います。そのために私も全力で取り組んでまいります。

Pick Up ピックアップ ③

ひたちなか・東海広域事務組合 消防本部・笹野消防署新庁舎開庁式典が開催

消防本部・笹野消防署庁舎は竣工から49年が経過し、建物など経年劣化が進んでいました。将来にわたる地域住民の安全・安心と消防需要に対応可能な庁舎をめざすため、2022年度から整備を進め、この度、竣工の運びとなり、11月12日に新庁舎開庁式典が開催されました。

総工費

新庁舎 建設：25億7,841万1千円（外構・付属庁舎含む）
指令無線工事：7億4,250万円
合 計：33億2,091万1千円
※ 現庁舎の解体・駐車場整備・訓練棟の建設などについては、別途4～5億円程度を要する見込み



消防本部・笹野消防署新庁舎



新庁舎開庁式典にて



祝 ひたちなか・東海広域事務組合 消防本部・笹野消防署新庁舎開庁式典
2025年11月12日



新庁舎が新たな防災拠点として、消防・救急はもとより、激甚化・大規模化する自然災害に対して、その機能と役割が十分に果たされ、地域住民の安全・安心に大きく貢献されることを、心から期待いたします。

Pick Up ピックアップ ④

第9回 北原ゆうじ後援会総会・市政報告会が開催

11月20日(水)、17時30分から日立Astemo佐和工場厚生棟ホールならびにWeb配信において、『第9回 北原ゆうじ後援会総会・市政報告会』を開催いただきました。当日は会場参加180名、Web配信での視聴を含めると240名を超える皆様にご参加いただきました。総会後は市政報告会の時間をいただき、市誕生30周年について、9月定例会の報告、さらには、ひたちなか市のふるさと納税や高場陸橋および周辺整備についてなど、私の考えを交えながら報告をいたしました。ご支援、ご指導をいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

後援会会長挨拶



北原ゆうじ後援会会長
梶山 康弘 様

出身組織代表挨拶



日立Astemoグループ労連会長
安 慎也 様

支援組織代表挨拶



日立建機労組土浦支部執行委員長
齊藤 元洋 様



北原ゆうじ後援会総会の様子



市政報告会の様子



議員としての活動も10年目を迎えました。ひたちなか市は今後もさらなる発展の可能性を秘めていると確信しています。これからも温かいご指導とご支援を賜りながら、全力で活動してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

Pick Up ピックアップ ⑤

ひたちなか市議会予算・決算委員会委員の改選

2024年12月2日(月) 予算・決算委員会委員の選任(第2種委員会)を行ないました。12月定例会から1年間、私は昨年同様、決算委員会に選出されました。予算・決算委員会委員の名簿は下記の通りです。

<予算委員会>

- ・鵜澤 恵一 ・安 のり子 ・鎌田 政人
- ・安 次男 ・清水 健司 ・萩原 健
- ・鈴木 道生 ・山田 恵子 ・雨澤 正
- ・海野 富男 ・大谷 隆 ・井坂 章

<決算委員会>

- ・大久保清美 ・宇田 貴子 ・井坂 涼子
- ・田中 高司 ・大内 健寿 ・加藤 恭子
- ・北原 祐二 ・弓削 仁一 ・大内 聖仁
- ・清水 立雄 ・三瓶 武 ・打越 浩

Pick Up ピックアップ ⑥

令和6年第4回12月定例会にて一般質問登壇



後援会などからの傍聴ならびに、たくさんの方々から激励をいただきました。ありがとうございました。
質問した内容は下記の4項目です。その中から、3つの質問と答弁について掲載いたします。

一般質問項目



1. 市政の取組みについて
 - (1) ひたちなか市誕生30周年の節目を迎えて・・・【市長 答弁】
 - (2) ひたちなか市誕生30周年記念事業について・・・【企画部 答弁】
2. 令和6年度の税収の見通しと令和7年度予算編成の基本的な考え方について・・・【総務部 答弁】
3. 令和6年度主要施策の執行状況などについて
 - (1) 防災情報伝達手段について・・・【市民生活部 答弁】
 - (2) ふるさと納税について・・・【企画部 答弁】
 - (3) 公立学童クラブについて・・・【教育委員会 答弁】
 - (4) 自立・分散型エネルギー設備導入促進事業について・・・【経済環境部 答弁】
4. 水道事業について
 - (1) 水道事業の広域化について・・・【水道事業所 答弁】

■ ひたちなか市誕生30周年の節目を迎えて

質問 先人たちが築き上げてきた、本市の価値や魅力は今も脈々と引き継がれ、本市は30周年を迎えた。大谷市長においては、時代の変化や出来事に柔軟に対応しながら力強いリーダーシップにより、まちづくりを担われている。また就任以来、前市長が培ってきた、自立と協働を市政運営の基本とし、ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例を尊重すると、

お誓いされている。さらに、本年の施政方針の中では、これまで築いてきたまちの価値を守り、本市に関わるあらゆる方とともに、まちの未来を紡ぎ、今後もさらなる発展に向けて新たな魅力を育て、多くの方から『選ばれるまち』となるよう全力で取り組むと述べられていた。そこで、市誕生30周年という節目を迎えた今、大谷市長が描く、本市の今後の展望について伺う。

答弁【市長】 ひたちなか市は、旧勝田市と旧那珂湊市の合併により誕生し、本年11月1日に30周年の節目を迎えた。当日は、ひたちなか市誕生30周年記念式典が挙行され、改めて、市政を担う責任の重さを実感するとともに、次の時代に向けた新たな一歩を踏み出す決意をした。本市は、かねてから自治組織や市民団体などを中心に多様で自主的な活動が活発に行なわれ、平成22年には市民の皆様と策定した『ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例』が施行されている。本条例を契機に、市民の皆様とのまちづくりへの参画がより一層活発になり、こうした市民と議会、行政が適切な役割分担をしながら推進してきた『協働のまちづくり』は、本市の大切な価値の一つであると考えている。日本全体で人口減少や少子高齢化といった課題が深刻化する中、本市も人口減少を総合的な課題として捉え、令和2年度に策定した第3次総合計画後期基本計画では、総人口15万人維持を最大目標に掲げた。そして、本市の特性である製造業をはじめ、バランス

よく発展している産業、さらなる産業集積が期待されるひたちなか地区のポテンシャルを活かし、職住育近接のまちづくりを進めてきた。また、今年度より令和8年度以降のまちのビジョンを示す、第4次総合計画の策定を進めている。引き続き、人口減少のスピードを抑制することに努めるとともに、今後は人口が減少していく中でも市民の皆様のご生活の質を維持・向上させていくという視点が重要になってくることから、これまで積み重ねてきた、バランスに配慮した総合的なまちづくりを基盤に、人口動態や科学技術の進歩、そして、市民をはじめとする関係者の皆様のご意見やニーズを踏まえながら、本市がめざすべき姿を見定め、その実現のための取組みを推進していく。これまで多くの方が紡いできたまちの価値を守り、新たな価値を生み出し育てながら、未来へつないでいくことで、『ひとが咲くまち、ひたちなか』のキャッチコピーのとおり、将来にわたって、あらゆる方が自分らしい花を咲かせ、生き生きと暮らし続けられる、魅力溢れるまちをめざしていく。

■ 防災情報伝達手段について

質問 地震や台風などの災害が発生した場合、市民に避難勧告等の防災情報を迅速かつ的確に伝達することは、災害から市民の安全を守る上で極めて重要である。本市は、自然災害などの防災情報を発信する手段として、通信網の混雑や停電のリスクに強い防災行政無線を基本的な情報伝達手段として位置づけ運用しており、令和4年度からは、よりクリアな音声および複信通話などのメリットがあるデジタル化に向けた更新工事が進んでいる。工事の完了は令和7年度中を予定しているが予定通りの完了を期待する。また、今年3月の代表質問の答弁では、これまでに市役所や消防本部にある無線発信設備の更新をはじめ、屋外放送塔200局中83局に対し、高性能スピーカーや4日間程度運用可能なバッテリーの更新、さら

に、デジタル式戸別受信機の小中学校等の指定避難所への設置や、防災FAXを貸与している聴覚障がい者への文字表示装置の交換が進められているとのことである。こうした中、市民の方からは戸別受信機について、現在のアナログ式戸別受信機からデジタル式に、いつ無償貸与されるのかといった声をお聞きする。デジタル化に向けた更新工事を進めるとともに、ホームページや市報などでの、戸別受信機の配布方法も含めた周知の強化も願います。そこで、1点目は、防災行政無線のデジタル化更新工事の進捗状況と今後の取組みについて、2点目は、デジタル式戸別受信機の小中学校等の指定避難所への設置状況および、その他各家庭への戸別受信機の配布方法と周知について伺う。

答弁[市民生活部] 1つ目の防災行政無線のデジタル化更新工事の進捗状況と今後の取組みについては、市役所本庁舎にある放送発信の主要設備、生活安全課および消防本部の遠隔制御装置、また、海岸部等の電波が届きにくい地域を解消するための再送信装置の整備が、昨年度までに完了している。屋外放送塔については、高性能スピーカーの導入に伴い音響伝達エリア調査の結果を基に、既存の200局から174局として更新工事を行ない、これまでに132局の受信機器および4日間程度運用可能なバッテリーの更新が完了している。また、デジタル式個別受信機については、計画個数15,500個のうち、8,000個の納品が済み概ね計画通りに進捗している。今後は残る屋外放送塔42局の更新工事を進めた後、音響伝達エリア調査により、対象外となった26局の撤去を行なうとともに、残りのデジタル式戸別受信機7,500個の納入を進める。2つ目のデジタル式個別受信機の

小中学校等の指定避難所への設置状況およびその他各家庭への配布方法と周知については、58ある指定避難所すべての施設への設置は完了しており、デジタル式戸別受信機の各家庭への貸与については、当面、アナログ波を併用するため、既存のアナログ式戸別受信機も、引き続き使用が可能である。また、平時や災害時の情報については、防災行政無線のみならず、メールや市公式SNSなどを活用して受信できるよう多元化を講じている。このほか、デジタル式戸別受信機への交換にあたっては、業者による外部アンテナ設置や電波状況確認が必要となり、作業を要することから、更新の基準を定めた上で進めていく。まずは、那珂川洪水が想定される地域の世帯から先行してしたいと考えている。機器の更新に周知については、対象となる地域の自治会の協力を得ながら回覧板等による周知や、市の依頼業者によるポスティングを考えている。

■ 水道事業の広域化について

質問 日本の水道事業は、高品質で安全な水の安定供給を長年にわたり維持しており、現在は高い普及率を達成している。また、経営環境も時代と共に変化をし、今後はこれまでの水道の拡張整備を前提とした時代から、既存の水道の基盤を確固たるものにしていくことが求められている。水道事業を取巻く現在の状況を見ると、人口減少による水需要の減少や水道施設の老朽化および耐震化への対応、人手不足と人材確保など、各種課題に直面している。これらの状況を踏まえ、国は平成30年12月に水道法を改正し、水道の基盤強化に向け広域連携

の推進を示し、都道府県に対しては、水道事業者等の広域的な連携の推進役としての責務を規定した。現在、茨城県が示すロードマップでは、令和7年2月に広域化に係る基本協定の締結、令和8年以降に地区ごとの経営の一体化、その後、事業統合によるサービス・料金統一を図るといったことが示されている。このような中、本市は現在、広域化への参加に慎重な姿勢で対応を検討していると認識している。そこで、1点目は、茨城県が進めている水道事業広域化の概要について、2点目は、将来を見据えた広域化に関する本市の考え方について伺う。

答弁水道事業所] 1点目の茨城県が進めている水道事業広域化の概要については、県からは市町村等が運営している水道事業を、県企業局に統合する経営の一体化を先行して進めて行く旨の説明を受けた。具体的には、国からの交付金を活用しながら基幹管路の更新や浄水施設の統廃合を進めるなど、運営基盤の強化や経営の合理化を図る指針が示され、本市の施設については、那珂川を水源とする上坪浄水場と県水を水源とする馬渡配水場はそのまま継続して使用する一方、地下水を主な水源とする上ヶ砂配水場は、地下水から県水に転換するとしている。財務関係では、すべての水道施設や留保資金などの資産、借入金などの負債は県に引き継がれる。また、事業ごとに区分された会計は継続され、予算・決算はそれぞれの事業ごとに作成するが、議会の議決や認定は県議会の所管となり、市議会の直接的な関わりはなくなる。今後の県の広域化のスケジュールは、令和7年2月に広域化への参画の意思を示す基本協定を締結したのち、法定協議会

を設置し、令和10年度までに経営の一体化を進める予定である。また、その後は、サービスや水道料金の統一を図る水道事業の統合を令和32年度までに進めるとしている。2点目の将来を見据えた広域化に関する本市の考え方については、県から示された財政シミュレーションや本市独自の財政計画等を検証したところ、本市はこのまま単独経営を続けることが十分可能であり、中でも水道料金については、広域化に参加した場合の方が市民の負担が大きくなる結果となる。さらに、重要な意思決定は県になり、現在、本市が計画的に進めている配水管の耐震化事業については、耐震化が遅れている他市町村への事業が優先されることが想定され、本市の事業が計画通りに進められなくなるのが危惧される。このようなことから、本市としては、県が進める広域化について参加する状況にはないと考える。本市では今後、浄水の過程で使用する薬品の共同購入など、経営の効率化につながる広域連携の施策について検討を進めていきたいと考えている。

2024年12月定例会報告

審議案件

12月5日(木)～19日(木)の15日間に渡り、第4回12月定例会が開催されました。定例会では15件の報告及び議案に対する審議を行ない、いずれも提案の通り承認・同意、及び可決しました。

報告事項 (3件)

- 専決処分報告について
 - ・2024年度ひたちなか市一般会計補正予算<第5号> (1件)
 - ・ひたちなか市医療福祉費支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について (1件)
 - ・損害賠償額の決定 (1件)

議案事項 (12件)

- 2024年度ひたちなか市一般会計補正予算<第6号>について (1件)
- 2024年度ひたちなか市下水道事業会計補正予算<第2号> (1件)
- ひたちなか市手数料条例の一部を改正する条例制定について (1件)
- ひたちなか市自転車駐車場設置及び管理条例の一部を改正する条例制定について (1件)

- ひたちなか市農業集落施設設置及び管理条例の一部を改正する条例制定について (1件)
- 茨城租税債権管理機構規約の変更について (1件)
- 消防ポンプ自動車購入(第15分団)売買契約の締結について (1件)
- 東中根高場線常磐線立体交差新橋増設工事委託事業に関する協定の一部を変更する協定締結について (1件)
- ひたちなか市教育委員会委員に任命について (1件)
- ひたちなか市固定資産評価審査委員会委員の選任について (1件)
- 教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度堅持のための政府予算に係る意見書提出について (1件)
- 医療品や医療機器の安定供給確保並びにイノベーション推進を求める意見書提出について (1件)

※定例会内容については右記の2次元コードなどからご確認ください。

第4回12月定例会 | ひたちなか市公式ウェブサイト

https://www.city.hitachinaka.lg.jp/gikai/g_katsudo/1001806/1013479/1013480/index.html



編集後記

「第72回勝田全国マラソン」が、1月26日(日)に開催されます。歴史をひも解くと、第1回大会は、「読売全国マラソン神宮大会」として1953年に東京・神宮球場をスタートしました。第2回大会以降は、青梅大会、宇都宮大会、水戸大会、勝田大会と開催地を転々とし、第29回大会から「勝田全国マラソン」に名称が変更され、現在に至っています。大会の特徴の一つは、何と言っても『おもてなし』です。今回もたくさんのボランティアの方々が多様な場面で活躍する予定です。私も毎年ボランティアに参加させていただいていますが、逆にランナーの皆さんから元気もらっています。今年も精一杯の『おもてなし』とともに、人々との交流を楽しみたいと思います。

皆様からのご意見・ご要望をお寄せください

この『活動報告』には、皆様方からのご意見・ご要望など、お寄せ頂く欄を設けております。本用紙をご活用頂き、郵送またはFAX・メール等でご連絡ください。また、送付宛先欄の2次元コードからもご意見・ご要望をお寄せいただくことができます。

社内便▷(佐)組合後援会事務局経由 北原行き ※必ず封筒に入れてください。

郵便▷〒312-0063 ひたちなか市田彦998-5

FAX▷029-275-1680 (日立Astemo労組 佐和支部内)

メール▷yuji.kitahara.ye@hitachiaSTEMO.com

ご意見・ご要望などをお寄せください。



《キリトリ》

(佐)組合 後援会事務局経由 北原 行き

ご意見・ご要望

お名前:

ご住所:

TEL:

※ ご提供いただいた個人情報は「北原ゆうじ」市政相談窓口の用途以外には使用致しません。

SNSへの
アクセスは
こちらから!!



仕事の不満や不安、悩まないでお電話を
何でも労働相談
0120-154-052
運営 茨城